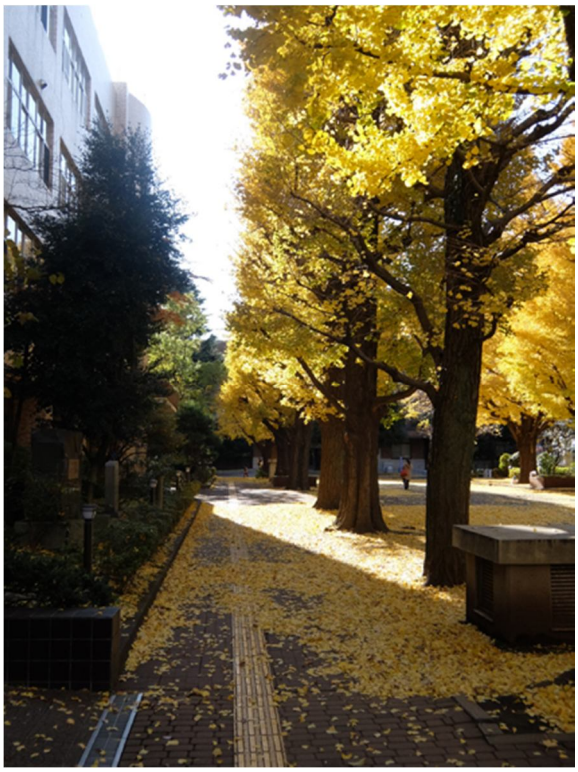
「日々の理科」（第 888 号） 2016（H28）, 12, 11

「イチョウ並木の美」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

12 月中旬といえば、冬のはずですが、今の東京は「晩秋」である。お茶の水女子大学正門から講堂へと続く 14 本のイチョウ並木も、今が一番美しい季節だ。

木々も路面も金色に染まり、自分の勤務する職場ながら美しい景観だと思う。学生や外来者も、多くが写真を撮っていた。この風景を見るのも、今年で 30 回目になった。この日は、大学附属のナーサリーの子どもたちが、イチョウの葉っぱで楽しそうに遊んでいた。



小学校側の歩道も、落葉で一杯だ。

落葉樹が秋に葉を落とす理由の一つは、積雪で枝が折れないようにする為の予防策である。しかし、東京にはほとんど雪は降らない。従って、葉を落とさなくても死活問題にはならない。大学のイチョウも、完全に葉を落とすのはクリスマスを過ぎてからだ。日本のイチョウは常緑樹化しつつあるように思う。

しかし、イチョウの美しさは葉が落ちるからこそである。風が吹くたびに、何百枚もの葉が並木に舞う。椅子を出して、一日中眺めていたい光景だ。